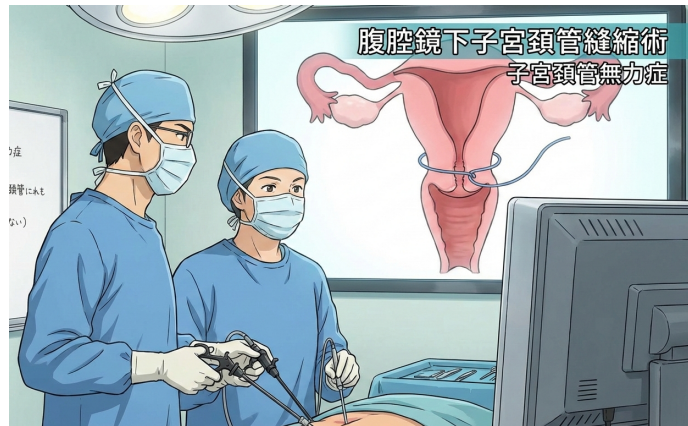


婦人科治療最前線

子宮頸管無力症に対する腹腔鏡下子宮頸管縫縮術

子宮頸管無力症とは

子宮頸管無力症とは、妊娠中に子宮の出口（子宮頸管）が、お腹の赤ちゃんを支えきれずに、陣痛などの自覚症状がないまま、早く開いてしまう病気で、中期流産や早産の原因となります。原因ははっきりとはわかりませんが、過去の手術や体質などが考えられています。自宅もしくは入院での安静・薬物治療や、経腔頸管縫縮術（腔側から子宮口を縛る手術）を行い子宮頸管が早期に開かないようにします。



腹腔鏡下子宮頸管縫縮術

経腔頸管縫縮術が不成功であった方に、再度の経腔的頸管縫縮術を実施した場合、32週未満の早産を30%超認め、胎児の死亡率は21%であったのに対して、開腹頸管縫縮術を実施した場合は早産が8%、胎児死亡率は3%と予防効果がより高いと証明されています。腹腔鏡下頸管縫縮術も開腹と同等の手術成績と言われており、入院を要する切迫早産は10%に減少するとされています。

妊娠前に行うメリット・デメリット

当院では、妊娠前に手術を行っています。妊娠前に行うメリットとしては、手術に起因する流産を回避できることや、妊娠子宮に比べて出血のリスクが低く、子宮も小さいため手術が容易であることなどが挙げられます。デメリットは妊娠しない場合や胎児死亡した場合の可能性を考える必要があります。手術自体が妊娠率を下げることはありません。

妊娠後の手術は、りんくう総合医療センター産婦人科で開腹手術で行っています。

手術費用に関して

本手術は現時点では保険収載されておらず、自費診療となります。費用は外来、入院（5泊6日）、検査費用等含めて約57万円になります。



外来受付時間

月曜日～金曜日 8時～11時30分

※午後は全て予約診療となります



市立貝塚病院

Kaizuka City Hospital

〒597-0015 大阪府貝塚市堀3丁目1—20

TEL 072-422-5865